～～第８００５回～～
播隆祭・槍ヶ岳
～Ｈ２８.９.１－４～
静岡駅北口を 1 日の夜 10 時に、マイクロバスにて出発。新東名新清水 IC を出て北上、長野道松本 IC を出る。国道 158 号を進み、2 日の午前 1 時 20 分に、道の駅風穴の里（ふうけつのさと）に着く。これから先の釜トンネルは、まだ開かないとのことで、バスの中で仮眠。4 時 45 分、上高地バスターミナルを目指して出発。5 時 20 分に同ターミナルに到着。天気は晴れ、空気はひんやりと冷たい。インフォメーションセンターのボックスに登山計画書を入れ、トイレ、ストレッチを済ませて、6 時過ぎに歩き始める。すぐに河童橋、下流側におなじみの焼岳の雄姿、上流側目の前には明神峰がそそり立つ。芥川龍之介が自ら命を絶つ 5 か月前に書いた小説「河童」の一節…『僕は、滑らかな河童の背中にやっと指先がさわったと思うと、忽ち深い闇の中へ真っ逆さまに転げ落ちました。…僕は「あっ」と思う拍子にあの上高地の温泉宿のそばに「河童橋」という橋があるのを思い出しました。』…。多くの登山客が歩くメインルートを外れて、大きなツガなどの原生林の中に整備された木道のルートを進む。梓川の河原にはケショウヤナギの木が生い茂っている。川の対岸には六百山がそびえる。治山工事用の道路と川の間の木道の遊歩道を進む。やがて鳥居が現れ、穂高神社奥宮とある。左手に「嘉門次小屋」と書いた休憩所がある。明治 42 年に芥川龍之介が東京府立三中の仲間たちと槍ヶ岳登山をしたとき、ガイドとして頼んだ上条嘉代吉（その父親が嘉門次）ゆかりの施設だそうだ。狭い境内の奥まったところに小さな祠が祭られており、その背後に明神池の水面が静かに広がっている。明神橋を渡り、旅館明神館に着く。ここでメインルートと合流している。これから先、梓川の河床に沿って整備された土破の広い道を進む。メインルートとあって多くの人が歩いている。やがて徳沢に着く。売店、レストラン、旅館もある大きな休憩施設で多くの登山客、ハイキング客が休んでいる。小休憩の後、横尾を目指して進む。これまでと同様の広い道である。しばらくして横尾に到着。ここも大きな休憩施設で多くの人でにぎわっている。早めの昼食をとるために小休止。横尾橋という大きな橋が架かり、これを渡って涸沢方面へ行くのだという。目の前には、前穂高岳が天に向かってそそり立っている。横尾を出て梓川の源流部、槍沢ロッジを目指して進む。ここからは、道幅は狭くなるが、歩きやすく整備されている。さすがに山登人気一、二を争う天下の名峰への道である。途中、槍見河原で休憩、透き通った水が音をたてながら流れている。川の上流方面、木の間から槍ヶ岳の穂先が見える。1 時間ほど歩いて、槍沢ロッジに到着。午後 4 時半から夕食。夕食後、播隆祭の前夜祭ということで、槍沢ロッジの好意でカンビール、簡単なつまみ、ナシ、ブドウが提供され、松本市の玄向寺（播隆上人は、この寺に寝泊まりしながら槍ヶ岳を目指した。）の住職が播隆上人の人物像を紹介、千代田徳子さんのオカリナに合わせて、我々ワンゲル合唱隊も「槍ヶ岳の歌」ほか数曲を大きな声で歌った。楽しい一夜でした。

天候：晴れ
地図：上高地・穂高岳・槍ヶ岳
コースタイム：上高地バスターミナル 520-600…明神池 720…旅館明神館 740…徳沢 840…横尾 950-1030…槍見河原 1110…槍沢ロッジ 1200
記録：静岡東支部　Ｆ・Ｍ
～２日目Ａコース～
播隆際・槍ヶ岳 2 日目、Ａコースは槍沢ロッジから天狗池に立ち寄って槍ヶ岳に登る班である。総勢 12 名の半数 6 名がＡコースで、天狗池から穂高岳と槍ヶ岳の稜線経由で登るＢコースより 1 時間遅れて 6:00 に槍沢ロッジを出発した。初日は槍沢ロッジで播隆祭の前夜祭があり、当夜は槍ヶ岳山荘で播隆祭がある。海抜 1820m の槍沢ロッジから槍ヶ岳までは歩行距離 7km で高低差 1360m と、初日とは違って本格的な登山である。天候は良く、朝の清々しい空気の中、槍沢の左岸のダケカンバが混じる明るい林の中を登って行く。テント場がある海抜 1990m のババ平の手前では、登山道沿いに白色のサラシナショウマやシラヤマギク、黄色のハンゴンソウ、紫色のヤマトリカブトなどの秋の花が咲いていた。小さなお花畑ではあったが登山の励ましになった。ババ平を過ぎると周囲は灌木となり一気に視界が開けて沢音も大きくなった。目の前に槍沢の U 字谷が広がっている。槍沢の左岸は槍ヶ岳への表銀座縦走コースの東鎌尾根の岩壁で、右岸は天狗原の先に穂高岳から槍ヶ岳への稜線まで続いている。途中で 2 度小休止を取り、天狗原分岐で槍ヶ岳への登山道から分かれて天狗池へ向かった。槍沢を横断することになるが、槍沢はガレ場の下に潜っていて水はない。ガレ場で一休みして、ハイマツや赤い実を付けたナナカマドの群生の間を抜けて 45 分程で天狗池に着いた。天狗池は雪渓が溶けてできる池で晩夏にしか現れないそうだ。槍の穂先はガスで見え隠れしていたが、幸いに池の周辺に風は無く、池に映る逆さ槍を何とか写真に収めることができた。十分に逆さ槍を堪能して天狗原分岐まで戻った。戻る時に気付いたが、天狗池の近くには花が終わり黄金色の綿毛を付けたチングルマや赤い実を付けた木苺の群生があって心を癒してくれた。天狗原分岐で小休止を取り 30 分程登ると水場があった。冷たい水で喉を潤して一息ついた。そこから登山道は更に急登になり、ジグザグに付けられた階段状の石の道を登っていくと、やっと槍の穂先が見えてきた。登山道の先に目をやると槍ヶ岳に向かっている播隆隊の僧侶の姿も見えた。槍ヶ岳の開山を成し遂げた播隆上人が利用したという天然の岩屋「播隆窟」で僧侶に追いついて、播隆窟の近くで昼食を取った。播隆隊は播隆窟の清掃とお参りをされていた。播隆窟から先は槍ヶ岳も見上げるようになり、槍の肩には宿泊する槍ヶ岳山荘の赤い屋根も見えた。右側の斜面に建つ殺生ヒュッテの石垣を見ながら、殺生分岐を更に槍ヶ岳に向かってジグザグに付いたガラ石の登山道を登った。何度も立ち休みを繰り返して 13:10 に海抜 3080m の槍ヶ岳山荘に到着した。丁度そのころにＢグループも槍ヶ岳山荘に到着し、山荘の脇にザックを置いて急いで身支度を整えると、揃って槍の穂先に向かった。槍の穂先は高さ 100m 程の岩壁だが、

クサリやハシゴが掛けられていて、大半は上りルートと下りルートに分かれている。落石に注意しながらゆっくりと登れば問題はなかった。30 分程で海抜 3180m の山頂に到着したが残念なことにガスで眺望は無かった。山頂は狭いので、急いで祠の前で記念写真を撮ると順番に下山した。14:30 には全員槍ヶ岳山荘に戻り、槍の穂先に登れた満足感に浸りながら、夜は「播隆祭」で盛り上がり、翌日の下山に備えて早めに就寝した。
Ａコース参加者；6 名（静岡北 1、静岡東 1、静岡南 1、静岡西 1、一般 2）
天候：晴れ
地図：槍ヶ岳・穂高岳
コースタイム：槍沢ロッジ 600…ババ平 635…天狗原分岐 815…天狗池 900-25…天狗原分岐 1000…播隆窟 1120-45…槍ヶ岳山荘 1310…槍ヶ岳 1350-1400…槍ヶ岳山荘 1430（泊）
記録：静岡南支部　正村
～２日目Ｂコース～
Ｂコース班は朝 5 時にストレッチを行い、ヘルメット着用、準備万端にて槍沢ロッジ出発。30 分ほどで槍沢キャンプ地ババ平に着く。体温調節実施。階段状の石の道を登っていく。槍ヶ岳方向が明るくなって来た。ナナカマド、アザミなどの草木が山道に茂っていて空気が清々しい。大曲にて朝食。水量豊富な槍沢の水の流れる音を聞きながらロッジ名物の五目寿司弁当を半分食べる。天狗原分岐からはトラバースして天狗池に向かう。天気も良く美しい槍ヶ岳山頂が見え始めた。道沿いには高山植物のブルーベリー、ブラックベリーなどが実を付けている。天狗池の上壁に着く。水量が非常に少ない。池の対岸に回ると幸い水面に槍ヶ岳山頂が反射していた。メンバーは満面の笑み浮かべ記念写真を撮る事が出来た。ここからＢコースの本題となる南岳へ続く急登が始まる。途中 2 か所の垂直な梯子を上り、槍ヶ岳や中岳斜面の風景やトウヤクリンドウ、チングルマの綿毛に励まされ横尾尾根分岐に 10：00 着。ここにザックを置いて南岳 3032ｍに向かう。穂高や笠ヶ岳を見ながら南岳に着く。息つく間も無く横尾尾根分岐に引き返し昼食とする。半分残して置いた寿司弁当を食べる。11：00 中岳へ出発。2001 年に新コースとなった左側斜面を登っていく。逆コースからの下山者は少なく安全な登山となる。11：45 中岳 3084ｍ着。霧が時々発生し暑さを和らげる中を進み大喰岳 3101ｍに着く。ここは吹きさらしでキャンプ禁止区域となっている。霧の中を進み 10 分ほどで槍ヶ岳山荘に着く。ザックを置いて急ぎ槍ヶ岳頂上に登る。今日はラッシュアワー状態である、すれ違いや梯子に最善の注意を払い頂上に 40 分程で着いた。霧に囲まれて眺望はない。日本百名山の槍ヶ岳頂上で記念写真を撮り、程なく下山。数年来の夢であった槍ヶ岳に登ることが出来、大感動だった。しかしこの山では鉄梯子、鎖など今までに無いスリルも味わった。14：25 山荘着。夕食までの時間、メンバー 12 人で北アルプスの山々を見ながら懇親会をやった。16：45 から夕食。メニューはハンバーグ定食。ご飯、味噌汁お替りＯＫ。宿泊者が多く、1 クール 160 人での食事は圧巻である。19：00～20：00 までは第 31 回播隆祭に参加した。山荘の穂苅社長とユーモアたっぷりの玄向寺住職の挨拶、日本山岳ガイド協会鈴木さんによる講演を聞き、最後に千代田さん（土

橋先生のお弟子さん）の奏でるオカリナやギター演奏で槍ヶ岳の歌やアルプス一万尺を合唱した。槍ヶ岳に登れるように開山してくれた播隆上人に皆感謝。20：30　一人一畳分の布団で明日に備え就寝。
Ｂコース参加者：6 名（静岡南 2、焼津 1、藤枝 1、会員外 2）
天候：快晴
地　図：槍ヶ岳
コースタイム：槍沢ロッジ 500…ババ平 530…天狗原分岐 705…天狗池 745…横尾尾根分岐 1000…南岳 1025…横尾尾根分岐 1040…中岳 1145…大喰岳 1240…槍平 1300…槍ヶ岳山荘 1310…槍ヶ岳頂上 1345…槍ヶ岳山荘 1425
記録：南　Ｔ・Ｍ
～３日目～
昨日は念願の槍の穂先に初登頂できたことに充たされて、最終日の今日は上高地駐車場まで登って来た道を一気に下山する予定 7 時間半のコースです。5 :00 に槍ヶ岳山荘から出発、ちょうど常念岳あたりから昇ってくる日の出の時刻と重なり夜明け前の空は赤く幾重にも棚引きながらそまっている様子は格別でした。振り返れば「赤槍」、朝の光を受けて赤く照らされた槍山頂は美しかった。3 日間すべて快晴に恵まれたことに感謝、岩のゴツゴツした槍沢を急ぎ足で駆け下りました。中途地点の播隆窟（2692m）では昨日の登りで播隆祭一行のお坊さんの一行が岩窟内で一緒に経をあげて登山者の無事を祈ってくれたことにお礼の手を合わせ、岩屋を後にしました。前泊した槍沢ロッジでは往きに預けた個人荷物を受け取って、足場が良くなってきた道を下ります。徳沢園でソフトクリームを食べて力を付けてから、だらだら道を速足で競争開始。観光の軽装登山者が行き交う中をがむしゃらに歩きました。上高地駐車場ゴールでは時間差がほとんど無く到着したメンバーと再会し安堵しました。本当に槍ヶ岳はインパクトの大きい有り難い山行でした。
参加者：12 名（静岡北 1、静岡東 1、静岡南 3、静岡西 1、焼津 1、藤枝 1、会員外 4）
天気：晴れ
コースタイム :槍ヶ岳山荘 500…水沢 605…槍沢ロッジ 820…徳沢 1100…上高地駐車場 1245
記録：西支部　Ｙ,Ｋ

播隆窟手前で播隆隊の僧侶に追いつく

槍の穂先から下る